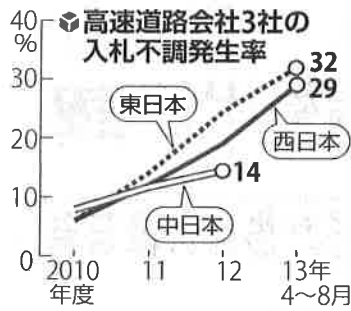


高速道工事入札不調3割

西日本、東日本、中日本の高速道路会社が発注する工事の競争入札で、建設業者が示した金額が高すぎるなどとして入札不調となるケースが相次いでいる。西日本高速が行った今年4～8月の入札のうち、不調は29%に達した。東日本大震災の復興需要や景気回復で人手が足りず、業者が割に合わない仕事を敬遠しているためだ。

再入札でより高い価格で契約せざるを得なくなれば、工事費用が膨らみ、経営を圧迫しかねないため、高速道路各社は対応に苦慮している。

高速道路3社によると、入札不調の割合は、2010年度は55.7%程度だったが、震災を



きっかけに人件費や資材価格が上昇し、高水準になっている。今年4～8月では、西日本が発注した工事件数200件のうち29%の59件、東日本は155件

のうち32%の50件が入札不調だった。競争入札は、業者が示した金額が、想定より高過ぎると落札者が決まらない仕組みが一般的だが、そもそも入札に参加する業者がいなかったケースも増えている。

不調となったのは、新線建設などの大型工事ではなく、料金所徴収員が通る歩道橋建設とい

った特殊工事や路面の補修が多い。手間がかかり、利益につながらない工事を嫌う業者が増えている(高速道路会社)という。手続きをやり直して3か月以上、工期が遅れることもある。

西日本高速は10月から発注する一部の工事で、想定した価格を超えても総合的に判断し、契約を結ぶことができる制度を導入

入した。工事費が膨らむ場合があるが「道路の安全管理上やむを得ない(西日本高速)ためだ。厚生労働省が発表した8月の有効求人倍率では、現場監督や施工管理をする「建築・土木・測量技術者」は3.57倍(パートタイムを除く)となった。震災前の11年2月は1.23倍で、建設業の人手不足が深刻化している。米田雅子・慶応大特任教授(建設産業論)は「工事のコスト増が利用者負担につながる可能性もある。人手不足を補う若手の人材育成が急務だ」と指摘している。

西日本など 震災需要で人手不足